

日本紀濟局考 全

天第八号



下乃... 源氏... 書... 子...
おら... 備... 乃...
ま... 後... 乃...
式... 乃... 君... 乃...
え... 乃... 乃...

若狭... 乃... 小... 溪... 乃... 里... 人...
石田... 乃... 類...

日本紀乃御房は考

紫式部と日本紀の御房といふ事... 考...
日記... 乃... 御... 房...
い... 乃... 御... 房...
ま... 乃... 御... 房...
こ... 乃... 御... 房...
日本紀乃御房といふ事... 考...
の... 乃... 御... 房...
み... 乃... 御... 房...

人ハこそちかげふりきりたどふのめづるに書紀の中より
さうしてかきつゝおむねなりいひていふ一宇治
の八宮ハ荒道稚子のきみよしとていひたれどこの世に
きこへぬものなりとてこれ紀とていふ人ありしか
わづらひたるれにみづの御耳とていふはあつし
とほえぬものなりとていふおのきほりたすいひたれど
源氏尹とハ嵯峨天皇ふりすしてかきつゝものよそ
おもひとていふなりとて相疊のみこととハ桓武天皇ふ
朱雀院のみこととハ平城天皇ふ冷泉院のみこととハ

仁明天皇よかりとていふ一一条院のみこととそれとよく
きこへぬものなりとていふハ日本後紀續日本後紀とてい
ふものなりとていふものなりとていふ日本紀
とていふものなりとていふハ後とていふ續といふものなり
くりとたれ書の名をよとていふ日本紀とていふ
書紀より續後紀續日本紀といふとていふものなりとていふ
ものなりとていふハ國史のことと日本紀とていふものなり
國史とていふものなりとていふものなりとていふものなり
とていふものなりとていふものなりとていふものなりと

管城天皇よなまことしたるまゝのるるむくむくこのものを
人々もいふにむくむくむくむくむくむく高崗を考へて
そとむくむくむくむくむくむく相壺巻のむくむくむくむく
うらむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
むくむく又せうろあはれむくむくむくむくむくむく長恨平の
繪高子院のかせむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
その時のみくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
朱雀院と中へ承平れみくむくのゆきむくむくむくむくむくむく
むくむく延喜帝より外ふむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく相壺の帝

を延喜はみくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
なむくむくむくむく物語を寛平のむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
むく
むく
のくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむくむく
むく
むく
むく
むく
むく
むく

かのびらうあみのまふあびとまにほくらぬの
 ころあもあまをたまりすべしけものころ文のたふ
 かきあころたをうに延喜のころよりたのころを
 ちふりすころに兼和のころよりあまのころを
 ありたれさてこそ其人のころとありのすふいひそね
 どもまげ世のりたころをいひあころふへれ
 源氏の君を延喜天皇ふりすころといわうに後紀
 日本後紀とよ小延喜天皇美能桓武天皇第二子平城天皇
 之母弟也延暦五年生長園初聰好書及長博覽經史

善属文妙草隸神氣岳立有人君之量天皇を鐘種
 愛也とのれとんころを源氏君も桐壺の帝
 の二乃みこ朱雀院のころの弟よてころくあを
 しほころとさころかころあまころほらし源氏も
 心みくた人あころまよふひ父のころた
 かなころをたれあどするていとくはころと
 のころに延喜天皇も源氏君もそのころひとな
 ぐまころにころまらぬみころたころこの國史と
 かのころとをんてまらへ桐壺をふくむれたやと

十八年天の下とさるる一り冷泉院のみくとも下への
着菜、まよふかたうて年月もかたうてうちのこ
かど御位ふつうせたりひて十八年まよふせたりひぬま
日ごろいとおもくたふせたりまふあうてめえくにおそ
めえせたりひぬといつてもさるる一り冷泉院のみくとも
らずして次なる仁明天皇の御事ふかまたりをたふしよ
としよ源氏君と源氏天皇にたふしたることをま
たうまさんとていひのまされともまて冷泉院のみくどに
まてい源氏君の御事まよひひて仁明天皇の御事

天皇の御事まよふとあせりひひかたか
さのたりたり又後後紀よ女御位四位下藤原朝臣
澤子卒故紀伊守後五位下總継之女也天皇紹之
誕生三皇子一皇女也寵愛之隆獨冠後宮俄病而
困篤載之小車出自禁中總到里第便絶矣天皇
聞之哀悼遣中使贈從三位也といふ仁明天皇ふ
宮つゝへの女御の事なれば冷泉院ふ宮つゝへの女御更
衣ふつゝしてこそひくまよ相蓋帝の更衣はことふ
かまたりまよひひてあまうりふまよひひかたか

この書は、明治時代の文壇に於ける重要な著作である。著者は、この書を通じて、当時の文壇の現状を批判的に検討し、その改良を期すことを目的とした。本書は、その著者の文学観と批評精神をよく示している。著者は、この書の中で、当時の文壇の弊を痛切に指摘し、その改良を期すことを目的とした。本書は、その著者の文学観と批評精神をよく示している。著者は、この書の中で、当時の文壇の弊を痛切に指摘し、その改良を期すことを目的とした。本書は、その著者の文学観と批評精神をよく示している。

よかん

此書は、明治時代の文壇に於ける重要な著作である。著者は、この書を通じて、当時の文壇の現状を批判的に検討し、その改良を期すことを目的とした。本書は、その著者の文学観と批評精神をよく示している。著者は、この書の中で、当時の文壇の弊を痛切に指摘し、その改良を期すことを目的とした。本書は、その著者の文学観と批評精神をよく示している。

日本紀略考異書

松平定房大納言左衛門尉藤原親房

信濃守藤原親房

那須元成

那須元成

那須元成

那須元成

那須元成

那須元成

